

《 学部消息 》

教 授 会 メ モ

9月11日（水）定例教授会

理学部4号館（1320号室）

議 題

- (1) 人事異動等報告
- (2) 奨学寄附金の受入れについて
- (3) 物品寄附の受け入れについて
- (4) 学部研究生の入学について
- (5) 学部研究生の期間延長について
- (6) 図書委員会報告
- (7) 会計委員会報告
- (8) 企画委員会報告
- (9) 理学院計画委員会報告
- (10) 評議員の選出について
- (11) その他

10月16日（水）定例教授会

理学部4号館（1320号室）

議 題

- (1) 人事異動等報告
- (2) 奨学寄附金の受入れについて

(3) 教務委員会報告

(4) 教養学部連絡委員会報告

(5) 人事委員会報告

(6) 会計委員会報告

(7) 企画委員会報告

(8) 理学院計画委員会報告

(9) スペクトル化学研究センター長の選出について

(10) その他

11月20日（水）定例教授会

理学部4号館（1320号室）

議 題

- (1) 人事異動等報告
- (2) 奨学寄附金の受け入れについて
- (3) 物品寄附の受け入れについて
- (4) 平成4年度内地研究員の受入れについて
- (5) 人事委員会報告
- (6) 企画委員会報告
- (7) 理学院計画委員会報告
- (8) その他

人 事 異 動 報 告

（講師以上）

所 属	官 職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
動物	助 教 授	村 上 彰	3. 9. 1	昇 任	浜松医科大学教授へ
地球惑星 物理	"	山 形 俊 男	"	転 任	九州大学助教授より
中間子	客員助教授	藤 川 和 男	3. 9. 16	配 置 換	京都大学教授より
物理	教 授	齋 藤 理 一 郎	3. 9. 30	併任解除	
物 理	教 授	福 山 秀 敏	3. 10. 1	併 任	本務：物性研究所教授 期限：4. 3. 31 まで
数 学	助 教 授	堤 誉 志 雄	"	転 任	名古屋大学助教授より
動物	講 師	田 代 康 介	"	昇 任	助手より
物 理	教 授	江 口 徹	3. 11. 16	"	助教授より
"	"	塚 田 捷	"	"	"

(助手)

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
化学	助手	赤木 右	3. 8. 26	復職	
物理	"	木村 芳文	3. 8. 31	辞職	
"	"	腰原 伸也	"	"	
"	"	有馬 孝尚	3. 9. 1	採用	
"	"	梅木 誠	"	"	
素粒子	"	吉田 哲也	"	"	
物理	"	北澤 良久	"	昇任	東京工業大学助教授へ
化学	"	村江 達士	"	"	九州大学助教授へ
"	"	赤木 右	"	"	東京農工大学助教授へ
素粒子	"	野崎 光昭	"	"	神戸大学助教授へ
化学	"	廣田 洋	3. 9. 30	辞職	
数学	"	武部 尚志	3. 10. 1	採用	
地球惑星	"	沼口 敦	"	転任	環境庁国立環境研究所研究員へ
素粒子	"	佐々木 真人	3. 10. 16	採用	
生物化学	"	飯 哲夫	"	昇任	京都大学助教授へ
情報	"	松本 尚	3. 11. 1	採用	
動物	"	浅野 美咲	"	"	

(職員)

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
物理	技官	八重樫 宏文	3. 9. 30	辞職	
天文	事務室主任	安田 正子	3. 10. 1	昇任	天文より
事務部	事務官	宮城 明治	3. 11. 1	配置換	国際交流課国際交流施設掛より
"	"	佐々木 守	3. 11. 16	"	附属病院人事掛へ

理学博士学位授与者

平成3年9月30日付学位授与者(12名)

専攻	氏名	論文題目
天文学	李 凡	銀河のガスハローの形成：重元素の吸収線系及び高速度雲
化学	李 承 求	東アジア大陸地殻の化学進化およびその中のある岩体で発見された希土類元素テトラド現象の研究
化学	モハマドB シャバニー	オフ・ライン及びオン・ラインでの微量元素の前濃縮法の開発とそれに基づくICP質量分析計による定量
植物学	河野 匡	テッポウユリ花粉管のミオシンに関する研究
植物物学	丁 大 橋	オオシャジクモ (<i>Chara Corallina</i>) における光合成産物の細胞間輸送の研究

専攻	氏名	論文題目
植物学	ルイス, M. ツパス	沿岸海域での従属栄養細菌群集による窒素代謝とその生態学的意義
相関理化学	青木俊夫	リョウメンシダに含まれる糖アナログの、植物の成長に対する阻害作用
論文博士	小木曾啓示	3次元偏極カラビーヤウ多様体について
論文博士	腰原伸也	有機固体における光誘起相転移の探索
論文博士	長谷川修司	縞走査干渉法による電子線ホログラフィの高感度化と、それによる微視的磁場の解析
論文博士	早川基	夜側極域磁気圏における電場計測
論文博士	藤沢捷二	電子分光法による芳香族化合物の電子状態の研究

平成3年10月28日付学位授与者(4名)

論文博士	栗原将人	剰余体一般の絶対不分岐完備離散付値体のアーベル拡大について
論文博士	加藤内蔵進	1979年における中国大陸付近の梅雨前線の構造の季節遷移過程
論文博士	笹井洋一	線形ピエゾ磁気効果に基づく地殻変動磁場のモデル化
論文博士	三宅早苗	分裂酵母における <u>ras1</u> 関連遺伝子 <u>ypt1</u> , <u>ypt3</u> , <u>ral2</u> の解析

海外渡航者

(6月以上)

所属	官職	氏名	渡航先	期間	目的
数学	助手	藤原一宏	アメリカ合衆国	3. 9. 1 ~ 4. 8. 15	数論的代幾何学の研究及び研究連絡のため
植物	助手	大矢禎一	アメリカ合衆国	3. 10. 10 ~ 5. 10. 8	核分裂におけるカルモデュリン結合タンパク質の役割に関する遺伝学的研究に従事するため
素粒子	助手	真下哲郎	スイス フランス	3. 10. 10 ~ 4. 10. 5	データ解析用大型計算機の運用及び国際協同実験電子・陽電子衝突実験のため
素粒子	助手	佐々木真人	スイス フランス	3. 11. 12 ~ 5. 9. 28	国際協同実験電子・陽電子衝突実験のため

外国人客員研究員報告

所属	受入れ教官	国籍	氏名	現職	研究員期間	備考
物理学科	大塚 助教授	フランス	NGUYEN Gai Van	パリ原子核センター (CNRS) 主任研究員	平 3. 10. 17 ~ 平 3. 11. 30	

理学部職員組合と理学部長との交渉

理学部職員組合（理職）と理学部長との定例の交渉が、9月30日、10月28日及び11月18日におこなわれた。この間、改革案（理学部の大学院重点計画及び数理学研究科設置計画）とともに理学部1号館中央化計画が具体化してきており、交渉でもこれらの問題が大きく取りあげられた。理職は「改革に対する理学部職員組合の見解と要求」をまとめ、10月の交渉で提出した。交渉の主な内容は以下のとおりである。

1. 昇給・昇格等の待遇改善について

事務職員の昇格等について、この間の交渉で、理職は4級・5級・6級昇格に関する要望書を提出し、理学部として要望書記載の職員の昇格改善に努力するよう要望した。事務長は努力したいと答えた。尚、10月1日付で理職が要望していた掛主任1名が実現した。

10月の交渉で、理職は、この夏理職がおこなった「事務系職員の仕事と『改革』に関する意識」についてのアンケート調査の集計結果を、学部長、事務長に手渡した。理職は、アンケート結果からも理学部の事務職員がたいへんな状況にあることがわかると指摘するとともに、アンケートの自由記入欄に記された改革に対する意見は無修正のまま掲載したことを述べた。学部長、事務長は、貴重な資料であり、参考にしたいと述べた。

10月、11月の交渉で、理職は技術職員の6・7級の昇格状況について質した。事務長は5-6月頃申ししたが、結果はまだ来ていないと答えた。理職は、他学部ですでに結果が来ており、定数は配分済みであることを指摘した。

11月の交渉で、理職は、天文学教育研究センターの技術職員の4級昇格の件で、1名が文部省の昇格基準をすべて満たしているにもかかわらず昇格できていない理由、及び他の1名の昇格について質した。事務長は、後者についてはおそらく在級年数の問題であり、前者については事情を調査して対処したいと述べた。

理職はさらに、条件を満たしている技術職員の6級昇格の件について、昇格の早期実現を要望した。

2. 技術職員問題について

9月の交渉で、理職は、この間2名退職したあとの技術部組織図の空きポストの問題、及び数理学研究科が分離独立するにあたって組織をどうするかという問題について質問した。理職は、組織充足の時点では、専門職として系にこだわらずに柔軟に運用するという約束であったことを指摘した。また、数理学研究科が独立しても組織の規模は現状のままにすべきだと主張した。事務長は、組織図の系や班を越えての昇任も可能であることを認め、組織図の空きポストに関しては上申してあると回答した。

3. 第8次定員削減について

11月の交渉で、理職は、第8次定員削減の状況について質した。学部長は、学部長会議での報告によると、東大では5年間で272名、内訳は、教官18名、看護婦6名、他は行政職職員であると述べた。また、理学部への配分は年2-3名位になろうと述べた。理職は、定員削減の中で改革に必要な増員は可能かと質した。学部長は、難しいが、増員は要求していくと答えた。理職は、定員削減に対してどう対応するか、理学部の方針を質した。学部長は、削減のしわ寄せが主として行政職職員にかかっており教官とのバランスが崩れていることを認めるとともに、行政職職員の削減はもはや限度を越えており、教官定数を振り替えるなどの方法もひとつの可能性として考える必要があるかもしれないと述べた。事務長は、教室事務等の合理化などは検討していないと述べた。

4. 定員外職員の定員化について

10月の交渉で、理職は、一人の該当者については、東職で取りあげて局長と協議することになったことを説明し、理学部としていつでも定員化できる態勢を維持するよう要望した。事務長は、引き続きいつでも定員化に対応できる態勢を維持していくと回答した。11月の交渉で、理職は、もう一人の該当者について、関係教室の対応を質した。学部長は、当該教室の主任から教室として定員化の方向が承認されたとの連絡があったことを明らかにした。理職は、教室から正式に上

申がなされた場合には理学部として定員化の方向で努力するとの、従来からの学部長の姿勢を質した。学部長は、定員化へ向けて努力すると答えた。

5. 行(二)から行(一)への振り替えについて

9月、10月、11月の交渉で、理職は、以前から要望している行(二)から行(一)への振り替えについて重ねて要望した。事務長は、年度途中の振り替えはたいへん難しいが、引き続き努力する、と答えた。

6. 改革問題・1号館中央化の問題について

10月の交渉で、理職は、学部長に提出してあった「改革に対する理学部職員組合の見解と要求」(10月25日付、以下『見解と要求』と略す)をもとに交渉をおこなった。

理職は、まず、改革や建物の中央化は、そこに働く職員の労働条件・職場環境に大きな変化をもたらすものであることを指摘した。その上で、『見解と要求』の第4項目に記された、改革に対する理職の基本的な立場を明らかにした。すなわち、上記のような職員の労働条件・職場環境の変更をもたらすような問題を当局が検討する場合には、(1)検討内容を検討段階で公表し、組合と協議する場を持つこと、(2)職員の労働条件・職場環境の変更は組合との合意なしにはおこなわないこと、の2点が原則であるという組合の基本的立場を表明した。理職は、この点に関する学部長の考えを質した。学部長は、この点に関して基本的に賛意を表明し、そのような姿勢でのぞむつもりであると述べた。

理職は、1号館中央化に関連して、図書室を7・8階に集中化するとか、試作室を統合するとかいう案が、図書委員会や当の職員が知らないうちに建物委員会の方で検討されているという話があることを指摘し、これはまさに労働条件・職場環境の変更にあたり、組合と協議すべきだと主張した。学部長は、案はまだ検討中であり、11月半ばにこの問題での説明会を開くと答えた。(1号館集中化計画に関する理学部の説明会は11月13日に開かれた。)学部長はまた、このような問題はさまざまな場で検討する必要があることを述べた。

理職は、大学院部局化に伴う法律上の問題で、教室事務と技官については法的な位置づけが曖昧であり、研究科への移行において法的整備が必要ではないかと質

した。学部長は、省令改正が必要かもしれないと述べた。理職は、研究科移行の際に、職員の処遇に関してもきちんと位置づけて処遇改善を図るべきだと主張した。学部長は、最終的には平成5年度ですべての専攻が研究科に移行し、研究科長が置かれるので、それまでに法的整備をする必要があると述べた。

理職は、職員定員増がない場合には改革案を再検討すべきだと主張した。理職は、また、職員が増えないまま共通大講座等の計画を進めれば、最後に負担は教官にかかってくると指摘した。学部長は、そのような場合には、教官定員を事務に戻すことも含めて対応を検討しなければならないと述べた。

理職は、1号館中央化に関連して、休養室、更衣室、シャワー室、体育施設などの福利厚生施設が必要だと主張した。学部長は、さまざまな要望を出してほしいと述べた。

11月の交渉で、理職は、数理学研究科の事務組織に関して、部局間事務の統合に道を開く教養学部事務への組み入れには反対であるとの理職の見解を表明し、事務組織に関する現段階での検討状況を質した。事務長は、教養学部の協力をおおぐ場合と、独立した事務組織をつくる場合の両方の可能性が検討されていると回答した。

11月の交渉で、理職は、キャンパス問題の議論がどのようなになっているかを質した。学部長は、理学部としては大型設備の設置できるキャンパスは必要であり、重要課題と位置づけて検討していると述べた。



編 集 後 記

今年も残り少なくなりましたが、理学部広報第3号をお届けいたします。

お忙しい中を御執筆いただいた諸先生に御礼申し上げます。

今年は理学院計画や理学部中央化計画など、新しい大きな動きの始まりを感じさせる一年でしたが、来年はその実現に向けて更に着実な進展の見られる年となることでしょう。

良いお年をお迎え下さい。

(内藤)

編集：

内 藤 周 弼 (スペクトル)	内線 4600
横 山 茂 之 (生物化学)	4392
松 本 良 (地 質)	4525
守 隆 夫 (動 物)	4438
十 倉 好 紀 (物 理)	4206
浅 見 新 吉 (中央事務, 庶務掛)	4005

印刷.....三鈴印刷株式会社